

## 鶏卵保冷への蓄熱式ウェットエアークーリングシステム導入

この養鶏ふ化場では、鶏の有精卵を一定期間保存し、計画的にふ化させ出荷しています。従来は、保冷库での保存期間が短く、ヒヨコへのふ化率は70%程度が限界だったため、受注ピークに合わせて親鳥を多く確保しなければならず、経費がかさむ原因となっていました。

そこで、蓄熱式ウェットエアークーリングシステムを導入し、庫内を低温(8~10℃)、高湿度(85%)に保ち、有精卵の保存に最適な環境条件を整えることに成功しました。これにより、保存期間の延長や、ふ化率の向上と合わせ、必要親鳥数や管理人件費の低減ができ、費用圧縮効果も認められました。

### 改善効果

- ▶ 有精卵の保存期間が2週間から3週間に延長されました。
- ▶ サルモネラ菌の繁殖等がなく、ふ化率は70%程度から90%以上に向上しました。
- ▶ 必要親鳥数や作業員数の抑制により、年間約140万円のランニングコスト削減を実現しました。

### 設備概要

- ▶ 冷凍機 1.1kW×1台
- ▶ 氷蓄熱槽 0.3m<sup>3</sup>
- ▶ 倉庫面積 約7m<sup>2</sup>

